

# 水稻営農技術情報（第2号）

**目指せ！うるち玄米1等米比率90%以上！！**

- 苗が軟弱徒長にならないよう、育苗ハウスの換気を徹底
- 高温登熟を回避するため、コシヒカリの田植えは5/15を中心に実施
- 基肥量は、土壌条件に応じて調整し、落下量を確認
- 除草効果を高めるために、除草剤は遅れずに適正量を散布



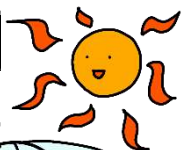
出穂後の高温を回避すれば、白未熟粒の発生が減少！

## 1 硬化期の育苗管理

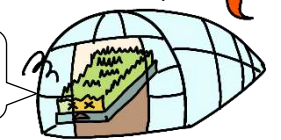
- ・ ハウス内温度は、25℃以下となるよう換気を徹底しましょう。特に、晴天日は早朝から換気しましょう。
- ・ 田植えの1週間前からは、夜間もハウスを開けましょう。
- ・ かん水は朝1回を原則とし、床土の乾きに応じてかん水しましょう。

【育苗期間中の温度管理の目安】

ステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2~3日	13~15日
温度	昼	30℃	25℃以下
	夜	30℃	10℃以上



日射があれば搬出直後から換気の徹底を！



## 2 本田準備

- ・ 田面に高低差があると、①田植機の植付精度が低下する、②除草剤の効果が劣る、③水管理がスムーズに行えない、等の問題が生じます。耕起・代かきは丁寧にいき、ほ場の均平に努めましょう。
- ・ ヒエ等の雑草の発生を抑えるために、代かきは、田植予定日の3~5日前に実施しましょう。
- ・ 代かきは少なめの水で行い、稲わらや雑草等をすき込みましょう。また、代かき後は自然減水とし、濁り水をほ場外に流さないようにしましょう。

## 3 田植え

★栽植密度70株/坪、植付本数3~4本、植付深さ3cm程度となるように田植機を調整しましょう。栽植密度をしっかりと確保することで、穂数が確保しやすくなり、収量・品質が安定します。

【基肥量】

- ・ 基肥量は、土壌に応じた施肥基準を遵守しましょう。
- ・ 田植時は落下量を確認し、必要に応じて開度を調整しましょう。

<肥効調節型(一発)>

品種名	肥料名	基肥量(kg/10a)		
		砂質浅耕土	砂壤土	壤土
コシヒカリ	Jコートコシヒカリ1号	40	35	30
	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ1号	45	40	35
てんたかく81	エコ早生専用	45	43	40
てんこもり	BBLPss 晩生専用	45	43	40
ゆうだい21	ゆうだい21専用	40	35	30

<分 施>

品種名	肥料名	基肥量(kg/10a)		
		砂質浅耕田	砂壤土乾田	壤土乾田
コシヒカリ	基肥 206	40	35	30
てんたかく81		45	40	35
てんこもり		45	40	35

※全層施肥の場合は、基肥で5kg/10a増量、早期追肥(田植後7日後)を10kg/10a程度施用しましょう。

## 【育苗箱施薬】

- 育苗箱施薬を施用する場合は、規定量を確実に散布しましょう。

使用農薬	散布量	施薬時期	対象病害虫	使用回数
ブーンレパード箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	いもち病、白葉枯病、 <u>紋枯病</u> 、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ	1回
ルーチンアドスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	いもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ	1回

※高密度に播種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて薬剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当たりの薬量を50～100gの範囲で調整しましょう。

## 4 水管理

- 田植直後は、水深5cm程度のやや深水とし、苗を保護しましょう。
- 活着後は、初期生育の促進のため水深3cm程度の浅水とし、早朝入水・日中止水で田水温が高くなるように努めましょう。

## 5 除草剤散布

### <除草剤施用時期の目安>

	田植	田植後日数																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
初・中期一発剤体系		ゼータプラス1キロ粒剤							ノビエ4.0葉期まで									
		デオーレ1キロ粒剤							ノビエ3.0葉期まで									
		ベッカク1キロ粒剤																
		カチドキZ1キロ粒剤																
		プライオリティジャンボ																
		クサウエボンジャンボ							ノビエ3.0葉期まで									
初期剤＋初・中期一発剤体系		ピラクロン1キロ粒剤							ノビエ1.5葉期まで									
		マーシット1キロ粒剤							ノビエ1.0葉期まで									
									ゼータプラス1キロ粒剤									
									デオーレ1キロ粒剤									
									ベッカク1キロ粒剤									
									カチドキZ1キロ粒剤									
								プライオリティジャンボ										
								クサウエボンジャンボ										

雑草が多い場合は、初期剤＋一発剤の体系処理がおすすめ

雑草が残った場合は、中期剤または後期剤を散布

<田植同時処理での薬害を軽減するために>

- 田面に水がやや残った状態で田植えを行う
- 植え穴の戻りが悪い場合、水持ちの悪い場合では使用を避ける
- 軟弱徒長苗での使用を避ける(健苗育成)
- 極端な浅植えにしない(植付深さ3cm)

- 使用薬剤の登録内容を確認し、適切に使用しましょう。
- 代かき後に気温が高いと、雑草の発生・生育が早まるので、遅れずに散布しましょう。
- 散布後5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させないようにしましょう。
- 散布後7日間は、止水管理(落水やかけ流しをしない)とし、水田外への流亡を防ぎましょう。
- 田植同時散布機を使用する場合は、薬剤によって開度が異なるので、散布機を調整しましょう。

## 6 斑点米カメムシ類発生防止対策

カメムシのエサとなるイネ科雑草が出穂をしないよう、畦畔等の草刈りや除草剤の散布を行い、カメムシ類が発生・増殖しにくい環境づくりに取り組みましょう。

※刈り取った雑草は、用水路に流さず、適切に処理しましょう！

## 春の農作業安全確認運動 令和8年3月1日～5月31日

### 農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底しましょう

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。  
農場や用水路の危険箇所の把握・改善や余裕をもった作業計画など、  
事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。

